

三代流薩摩五ツ太鼓 感謝を込めて演奏

2月18日、自慢館冬の鍋祭り、三代流薩摩五ツ太鼓が五ツ太鼓の演奏を披露しました。

三代流薩摩五ツ太鼓の西井田三代子さんは、昨年7月豪雨災害の被災者の一人。西井田さんは「被災を受け、精神的にも時間的にも余裕がなかったが、多くの方の支援により元氣と勇氣をもらいながら、昨年11月に練習を再開できました。また今回、太鼓を披露する機会を頂き本当にうれしく思います。これからもみんなで力を合わせ、少しでも地域の活性化にお役に立てるよう頑張っていきたい」と話されました。



感謝の気持ちを込めて演奏する三代流薩摩五ツ太鼓

九州地方整備局長表彰受賞

昨年7月の豪雨災害の際、人命救助や水害防止に多大の貢献があったとして、さつま町消防団が国土交通省九州地方整備局から局長表彰を受けました。

消防団は、建設業協会やボランティアの皆様とともに、長期間にわたり道路清掃や家財道具搬出作業の復旧活動も行いました。



井上町長から表彰状を受け取る櫛山団長

ガンパロウ さつま 県北部豪雨災害 復旧・復興へ向けて

署名簿添え、要望書を県へ提出

1月23日、豪雨災害被災地区連絡会議(児玉清美会長をはじめ、井上町長、濱田議長らが県庁に出向き、被災者支援制度の条件緩和及び制度拡充、環境や景観に配慮した河川改修などを求める県北部豪雨災害に関する要望書と町民12、658人の署名簿を県に提出しました。

市橋保彦副知事は「支援制度や河川整備の基本方針、整備計画に向けて町と十分に協議をして進めていきたい。また、県としても住民の現状を把握して、国とも協議を進めていきたい」と話されました。



豪雨災害に関する要望を聞く市橋副知事(左)

河川激特事業「川づくり研修会」

2月6日、宮之城ひまわり館で、河川激特事業「川づくり研修会」が行われました。

講師として招かれた国土交通省の激特事業及び災害助成事業等における多自然型川づくりアドバイザーでもある九州大学大学院工学研究院の島谷幸宏教授は、全国の河川環境に配慮した河川改修の事例を紹介され、「多自然型川づくりは、地域の景観や歴史、文化、また、川に棲む生物など川の営みも理解しなくてはならない。次の世代にどのような河川環境が残せるかが重要であり、繰り返し話し合いをして住民の合意形成を図り、みんなで作り上げていくことが大切である」とアドバイスされました。



川づくりについてアドバイスをする島谷教授